

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	島根県隠岐郡海士町立福井小学校									
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊級	計	教員数	
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7		12
児童数	9	8	13	11	12	15	1	69		

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ児童の育成
 ~算数科における個に応じたきめ細かな指導の工夫改善を通して~

2. 研究内容と方法

- (1) 実施学年・教科
 ・全学年・算数

児童の理解、技能の定着における差が大きい

(2) 年次ごとの計画

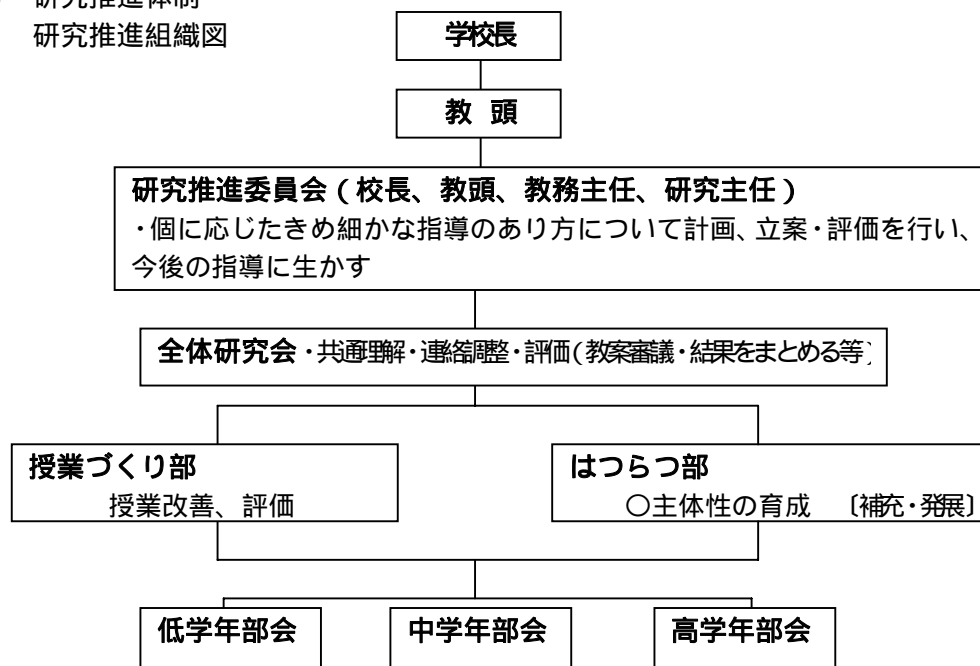
平成15年度	<p>テーマ 算数科でつけたい力を次のように定め、授業改善と主体的な学習機会の充実という観点から個に応じたきめ細かな指導を充実し、学力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎的な知識と技能（基礎的、基本的な内容） (2) 計画を立て、最後までやり通す力（フィードバックする力） (3) 既習の学習をもとに、筋道を立てて問題を解決する力 (4) 適切な言葉や式でまとめたり、発表したりする力（表現） (5) 解決の仕方やまとめ方、学習態度などを身につけ、進んで学習する力 <p>研究の見通し</p> <p>(研究仮説) 個に応じたきめ細かな指導を充実するとともに、フィードバックしたり繰り返し学習したりする時間を保障すれば、基礎・基本が定着し、主体的に学ぶことができるであろう</p> <p>(作業仮説1) 【児童の実態に応じた弾力的な指導計画等を工夫すれば、確かな学力を保障し、主体的に学ばせることができるだろう】 (実態に応じた指導計画等の工夫・改善)</p> <p>(作業仮説2) 【教材に応じてTTの活用や習熟度別学習を取り入れれば、一人一人の疑問や課題に応じることができ、基礎・基本が身につくであろう】 (TTの活用及び習熟度別学習)</p> <p>(作業仮説3) 【学習の流れや学び方、個人差を考慮した学習の手引きを作れば、基礎・基本が定着し、主体的に学ぶことができるであろう】 (学習の手引きの活用)</p> <p>(作業仮説4) 【学習教材や教具を工夫すれば、問題と日常の体験を結び付け、解決の見通しを持つことができるだろう】 (学習教材・教具の工夫 お金、ブロック、タイルなど)</p> <p>(作業仮説5) 【自己を振り返らせ、繰り返し学ばせれば、計算の意味や技能が定着し、授業において見通しをもち、主体的に学ぼうとするであろう】 (基礎学力の徹底 チャレンジタイム、スキルタイム、家庭学習など)</p>
--------	--

平成15年度	<p>研究の内容・方法</p> <p>(1)実態に応じた指導計画、指導過程等の工夫・改善 フィードバックできる時間を単元計画の中で保障する。 個人差が大きい単元（主として計算技能）においてTTや習熟度別学習を取り入れる。 単純化した問題、スモールステップで区切った問題を提示したり、1単位時間の中で習熟を図る時間を確保したりする。</p> <p>(2)TTの活用及び習熟度別学習 全学年の算数科においてTTを実施（週2時間） T1 全体指導、T2 遅れている児童の補足・確認など、複数の教員による個に応じた指導 習熟度別学習の実施（児童の実態や習熟度に応じて） 既習内容の定着状況により、次のような習熟度別による学習形態を単元や授業の初めから取り 入れたり、途中や終わりに取り入れたりして、弾力的に行っていく。 「発展的な学習コース」（基本的な内容の上にさらに発展的な問題などに自分のペースで取 り組む） 「補充的な学習コース」（教師とともに今までの学習を振り返りながら基本的な内容を一つ 一つ解決していく）</p> <p>(3)学習の手引きの活用 児童が単元に必要な既習の力や学習の時間を知るなど主体的に学習を進めたり、課題に対し仮説を 立て、検証し、類題で習熟を図るといった学び方を定着させたりするなど、個に応じた指導を充実す るために学習の手引きを作成し、活用する。 作成にあたっての留意点は次の通りである。 学習の見通し・・・（単元全体、1時間の授業の学習の流れが分かるように） 分かりやすい教材・・・（数や問題を簡単にする 数に関する日常の経験を取り入れる コース別の問題） 個に応じた支援・・・（自力解決のためのヒント 解決するための方法など教材に応じて載せる） 問題解決の力の定着・・・（考え方や解き方をまとめる欄を載せる） 基礎・基本の確実な定着・・・（定着、発展を図るための練習問題20～25問 問題の質を易から難のステップで組み立てる） 指導と評価の一体化・・・（形成的評価、必要に応じて自己評価を取り入れる）</p> <p>(4)学習教材・教具の工夫 お金、ブロック、タイルなど 生活で関わりのある教材、教具を取り上げれば、日常の体験と結び付けて考え、見通しをもって学 習に取り組むことができると考えた。 児童の興味・関心のあるもの（例えばゲーム的なもの、ごっこ遊び的なもの） 生活で関わりのあるもの 式や計算方法をイメージできるもの（お金・ブロック・タイルなど） 操作しやすいもの（お金・ブロック・タイルなど） 特に「お金」は、数の仕組みを理解させるには適している教具であると考え、低・中学年 の数の概念、たし算、ひき算などの指導に活用する。</p> <p>(5)基礎学力の徹底 チャレンジタイム、スキルタイム、家庭学習など 「基礎学力」を読み・書き・計算と考え、この基礎学力の定着を図るために、授業時間以外にも繰り 返し学ぶ機会を設定した。 チャレンジタイム・・・四則計算の習熟 ア、週に1回（金曜日6校時）3年生以上 イ、コースを自己決定 児童によっては教師が助言 ウ たし算 ひき算 かじ算 わじ算 小数 分数のコース エ 自己採点式 オ、個人ファイル、達成度表で保存 カ、複数の教員を配置し、つまずきのある児童に時間をかけて指導</p>
--------	--

平成15年度	<p>スキルタイム・・・読み、書き、計算などの基礎学力の定着 ア、毎日終礼後の10分間 イ、学級の実態に応じて内容を選定</p> <p>家庭学習の充実・・・家庭との連携による学力の向上 ア、家庭での生活アンケートを実施 イ、生活習慣や家庭学習についての協力依頼(参観日) ウ、1日30分間の学習習慣作り(上学年は学年×10分)</p>
平成16年度	<p>テーマ 算数科における成果と課題を踏まえ、国語科へも応用し、更にきめ細かな指導を充実させ学力の向上を図る。</p> <p>研究の見通し(作業仮説) (算数、国語において) (1)実態に応じた指導計画等の工夫・改善 (2)TTの活用及び習熟度別学習 (3)学習の手引きの活用 (4)教材・教具の工夫 (5)基礎学力の徹底 チャレンジタイム、スキルタイム、家庭学習などの充実</p> <p>研究の内容・方法 (1)算数科 指導計画、指導過程などの見直し 学習の手引きの作成及び見直し</p> <p>(2)国語科(算数科での研究を国語に 응용していく) 実態に応じた指導計画、指導過程などの工夫 TTの活用及び習熟度別学習 学習の手引きの作成</p> <p>(3)基礎学力の徹底 チャレンジタイム、スキルタイムの効果的な実施 家庭学習の充実 ・家庭学習の手引きの作成と家庭との連携</p>

(3) 研究推進体制

研究推進組織図



推進体制上の工夫

- ア．全学年にＴＴを組めるよう教育課程や時間割の編成及び担当者の割当てを工夫
- イ．子ども支援委員会を設置し、学力不振、生徒指導、人権、障害のある子ども等の諸問題に対し、全教職員により迅速に対応する体制を構築

平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

1．研究の成果

確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ児童の育成をするために、5つの作業仮説を設け、実践を重ねてきた。その結果、次のようなことが明らかになった。

(1)実態に応じた指導計画等の工夫・改善

児童の実態に応じて（個人差の大きい単元 特に数と計算、量と測定）ＴＴ指導や習熟度別学習などの指導形態を取り入れたり、フィードバックできる時間を確保したりして授業を行った結果、児童は、じっくりと問題に取り組むことができた。そして、ほとんどの児童が基礎的基本的な内容を理解することができた。

学習する内容をスモールステップで計画を立てて児童に提示したことで、授業の流れ、学習する内容が明確になり、教師、児童ともに見通しを持って学習することができた。

(2)ＴＴの活用及び習熟度別学習

学習内容や児童の実態に応じてＴＴや習熟度別学習を行った結果、早く理解ができた児童は次の学習に取り組み、理解ができていない児童はじっくりと問題に取り組むなど、一人一人の学習活動を保障することができた。

理解ができていない児童のつまずきを把握し、個に応じた指導をすることができた。その結果、児童は一つ一つの課題をクリアしていくことができた。

補充的な学習コースでゆっくりと問題に取り組み、できるようになったら、発展的な学習コースに移って学習に取り組むなど、発展的な問題にどんどん挑戦しようとする児童の姿が見られるようになった。

児童のアンケートや感想から、習熟度別学習に対してほとんどの児童が肯定的な感想を持っており、達成感を味わいながら学習に取り組むことができた。

児童のアンケートより

ゆっくり進むコースと問題をたくさんやったり難しい問題に挑戦したりするコースに分かれて勉強する仕方はどうですか（1、よい、2、よくない、3、どちらともいえない）

	1	2	3	わけ
3年	13	0	0	・集中できる ・じっくりコースできちんと勉強できる ・分からなかった事が分かるようになる ・自分のレベルにあった勉強が自分のペースでできる
4年	10	1	0	・自分で解けて楽しい ・ゆっくりやって確実に分かるほうがいいし、挑戦してどんどん進んでいってもいいから
5年	12	0	0	・色々な問題にたくさん挑戦できて、どんな問題でも完璧にできるようにできるから ・少ない人数のほうが焦らなくてよい
6年	15	0	0	・分からない問題も説明を聞いたりして分かるから ・難しい問題をしている時に、分からない時は前に返ってゆっくりできるから など

(3)学習の手引きの活用

学習の手引きを活用したことで、何を学習するのか、どんな方法で解決していけばいいのか など学び方が分かり、自力解決しようとする児童が増えてきた。

本時で押さえないければならない内容が明確になり、評価がしやすくなった。また、問題を段階的に作っているため、児童がどこでつまづいているのかが分かり、フィードバックしながら指導をすることができた。

練習問題を易しいものから難しいものへと段階的に作ったり、適切な量（20～25問程度）を入れたりすることで、習熟を図るのに効果的であった。1年生の授業では、一人一人の活動量や問題量が増え、「もっとやりたい、これもやりたい、分かってきた、楽しい」などの童の咳きがあった。

児童のアンケートから、学習の手引きの活用は学習内容を理解する上で効果的であったといえる。

児童のアンケートより

学習のてびきを使った授業はどうか

	よく分かるようになった	少し分かるようになった	前と変わらない	少し分からなくなった	まったく分からなくなった
1年	7	1	0	1	0
3年	8	2	3	0	0
4年	6	3	2	0	0
5年	4	3	5	0	0
6年	9	5	1	0	0

*5年「面積」の市販テストの結果

100点・・・・・・8人 90点・・・・・・1人

85点・・・・・・2人 70点・・・・・・1人

平均点が94点という結果になった。

(4)学習教材・教具の工夫 お金、ブロック、タイルなど

いろいろな学習教具を使って、操作することは、児童の理解の手助けとなった。

ア、1年生は、日常生活でふれる具体物や半具体物と数に対応させることによって、数の量的把握に役立った。

イ、3年生のあまりのある割り算では、くりの絵など操作することにより、あまることの意味を視覚的にとらえ、理解するのに有効であった。

ウ、お金の活用は、2, 3年生のたし算、ひき算の筆算で十進數位取りを理解させるのに効果的であった。また、5年生の小数のわり算で、十進数で表されているお金は、位を一つ上げて考えていくことに結びつけるのに効果的であった。

エ、問題を追究する場面で、日常の経験と照らし合わせ、解き方を導き出すのに有効であった。

オ、自分の考えを整理し、まとめるのに役立った。

児童の思考が一見して把握できるため、児童の支援に生かすことができた。

児童の生活に関連のある教材を活用したことで、問題場面をつかむ段階で自分の体験をイメージしながら考えることができた。

教具を操作することにより、課題や解決方法のイメージが高まるとともに、多様な課題や解決方法を導くことができた。

(5)基礎学力の徹底 チャレンジタイム、スキルタイム、家庭学習など

苦手な計算やさらに定着させたい計算を自己決定させて取り組ませた結果、自分の目標に向かってじっくりと落ち着いて取り組む児童が増えてきた。

複数の教員が指導することにより、一人一人に時間をかけてゆっくりと指導できた。

100マス計算や漢字の学習を繰り返し行った結果、漢字を書く力や計算を速く正確にする力がついてきた。また、繰り返し練習すればできるようになることが分かり、家庭学習にも意欲的に取り組む児童が見られるようになった。

2. 今後の課題

学習の手引きの見直し

さらに、一人一人の児童が自力解決し習熟を図ることができるように、取り上げる教材、問題の質や量、解決のためのヒントの出し方、コース別の手引きの工夫など、手引きの内容を見直していく。また、重点単位だけでなく、他の単位でも手引きを作成し活用していく。

個人差への対応として

個人差に対応した取り組みを行えば行うほど、個人差は大きくなる。そこで、児童が主体的に取り組むために絶対評価を意識したほめ方など主体的な学習を促す支援を工夫していく。

学習のしつけと家庭学習

基礎的・基本的な内容をより一層定着させるためには、自立する力を身につけることや家庭学習に継続的、主体的に取り組むことも大切である。そこで学習の躰（自立する力）を身につけさせることの大切さや家庭学習の取り組み方についてPTAとともに話し合いを行い、共通理解し、家庭と学校が協力して児童の指導を行っていく具体的な方策を明らかにしていく。

基礎・基本の徹底を国語科に生かす

算数科の研究の具体的な成果を国語科に発展させて研究を進めていく。

学力等把握のための学校としての取組

教研式標準学力検査CRT

- ・平成15年1月、平成16年2月実施
- ・国語、算数における観点別到達度の把握

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1) 研究発表会開催

日時	平成16年1月30日（金）	13時30分～16時40分
場所	海士町立福井小学校	
参加者	隠岐島小・中学校教職員	教育委員会関係者 町会議員等 約70名
目的	本校の実践研究を公開し、成果の普及・推進を図るため	
内容	授業公開 授業研究分科会 全体会での研究成果報告・協議 1年次のまとめとして研究紀要を作成、配布	

(2) 授業で作成した学習の手引きを全小・中学校に配布

(3) 成果普及のためのホームページを作成中

(4) 2年次研究発表会開催（予定）

日時	平成16年11月頃
場所	未定
対象	小・中学校教職員 保護者 行政関係者 地域住民
目的	2年間の研究成果を公開し、学力向上に向けた取組への理解とその成果の普及・推進を図る
内容	未定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること

【新規校・継続校】	1 5 年度からの新規校	1 4 年度からの継続校		
【学校規模】	6 学級以下 1 3 ~ 1 8 学級 2 5 学級以上	7 ~ 1 2 学級 1 9 ~ 2 4 学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T、Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	